

「この人に聞く〜MURC ソーシャルビジネス支援プログラム〜」vol.6

プロボノ活動を通じて、社会課題へのアンテナを高く 松岡 夏子さん（きずなメール・プロジェクト支援チーム）

当社に入社する以前にNPOや自治体で働いた経験もあるという松岡研究員。しかし「他団体を側面から支援する」という経験は初めてだったといいます。そんな松岡研究員に、半年間の活動を振り返っていただきました。

“知っているようで知らなかった” NPOとの新鮮な出会い

―当社に入社する以前に、NPOのスタッフとして働いていた経験があるそうですね。

徳島県上勝町で活動する環境NPO“ゼロ・ウェイストアカデミー”のスタッフとして、3年間働いていました。民間の組織でしたが、施策の一環として立ち上がったNPOであり、町からのバックアップもありましたので、一般のNPOに比べると資金や人といった経営資源には恵まれていました。そういう意味では、純粋に民間発のNPOに携わったのは今回が初めてで、新鮮な気持ちで取り組むことが出来ました。

“当社らしい社会貢献活動って？”

―当プログラムにも、立ち上げ当初から関心を持っていましたか。

昨年度の年度当初から、社内の有志数人が集まり、プロボノの力を活かした当社らしい社会貢献活動が出来ないか、ディスカッションを重ねていました。検討結果を元に本プログラムがスタートを切ったわけですが、自分自身は最初の意見交換から議論に参加していました。微力でしたがプログラムの立ち上げに関わることが出来、とても良い経験になったと思います。

専門分野は異なるけれども

―参加するプロボノ先としてきずなメールを選んだ理由を教えてください。

理由は2つあります。ひとつは、普段の業務の中心を占める環境問題や廃棄物問題とは別の分野の活動にも関わってみたいと思ったことです。もうひとつは、自分の経験が生かせそうだったことです。

きずなメールさんには、自治体との連携を強化したい、というニーズがありました。自分自身は自治体職員として3年ほど勤務した経験があります。この経験が生きるのではないかと思います。きずなメールのプロボノチームに参画することに決めました。

経験を活かしながら

―実際にはどのような貢献ができたのでしょうか。

支援期間の前半は、プロボノチームと団体との間で現状認識を共有したり、団体としての方向性を整理することが活動の中心でした。この点については、他のプロボノメンバーが中心的に役割を發揮し、団体としての成長戦略図が描けたのではないかと思います。

後半からは、民間企業や自治体職員へのヒアリングを行うなどの具体的なアクションが増えていきました。自分自身は、よく知る自治体職員を紹介し、ヒアリングに同行するなどしていました。

支援先のきずなメールさんは、今まで自治体職員とのコネクションはあまりお持ちでなかったとのこと。結果として自治体職員とファーストコンタクトを取るまでに、大変な手間とコストを掛けていたと聞きました。自分たちが支援することで、有意義な意見をいただけそうな自治体職員とダイレクトに繋がることが出来たのではないかなと思います。



「理解と協力意欲のある外部」は貴重な存在

―プロボノチームのメンバーそれぞれが得意分野を生かして支援したと言えそうですね。

自分もNPOで働いていたので想像できるのですが、団体の外から客観的なアドバイスを貰えるというのは、とても貴重な機会になり得るのだらうと思います。少なくとも自分自身の経験では、「一定の理解と協力意欲のある、外部の人と自分たちの組織について話す」という時間そのものが貴重でした。

もちろん、私たちプロボノチームとしては、1回1回のミーティングが意味あるものになるよう努力をしていましたし、自分自身も他のメンバーの振る舞いやディスカッションの様子を見て、学びになることが多かったです。毎回のミーティングに参加するだけでも新鮮な発見がありました。

社会に対するアンテナ

―専門分野が異なっても、十分に力量を發揮することが出来たんですね。

「プロボノとして専門性を發揮して」と考えると、どうしても敷居が高くなりがちです。しかし取り組む中で課題への認識はどんどん深まっていきますし、社会課題へのアンテナが立ち、世の中の動きに敏感になります。

普段と違うテーマに触れ、業務とは異なるメンバーと協働することで、より自由に発想できる環境が得られました。これからはアンテナ高く社会と関わられればと思います。

(2014年5月30日)



松岡 夏子 環境・エネルギー部 研究員

2009年神戸大学大学院国際文化学研究所修士課程修了。学部時代のフィールドワークをきっかけに廃棄物問題に関心を持ち、2005年に日本で初めて「ゼロ・ウェイスト（ごみゼロ）宣言」を行った徳島県上勝町で、NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミーを設立し初代事務局長に。2009年から神奈川県葉山町の職員としてごみ半減政策を担当。2012年から当社環境・エネルギー部研究員として廃棄物・リサイクル分野の調査研究に取り組む。